

## 記者発表資料

平成25年9月3日  
雲仙復興事務所

平成25年8月29日～9月1日降雨後の雲仙普賢岳  
溶岩ドーム挙動観測結果及び土砂堆積について

平成25年8月29日以降、島原半島では時間雨量最大35mm、降り始めからの総雨量244mmの降雨を確認致しました。(別紙1)

なお、今回の降雨による雲仙普賢岳溶岩ドームの急速な変位速度の上昇等の異常は確認されませんでした。(別紙2)

また、水無川上流において、大量の土砂堆積が確認されました。(別紙3)

今後、台風17号に伴う降雨も予想されることから、引き続き注意が必要です。

## 問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 雲仙復興事務所

(0957) 64-4171 (代表)

技術副所長 古賀 唯雄 (内204)

砂防課長 杉山 光徳 (内311)

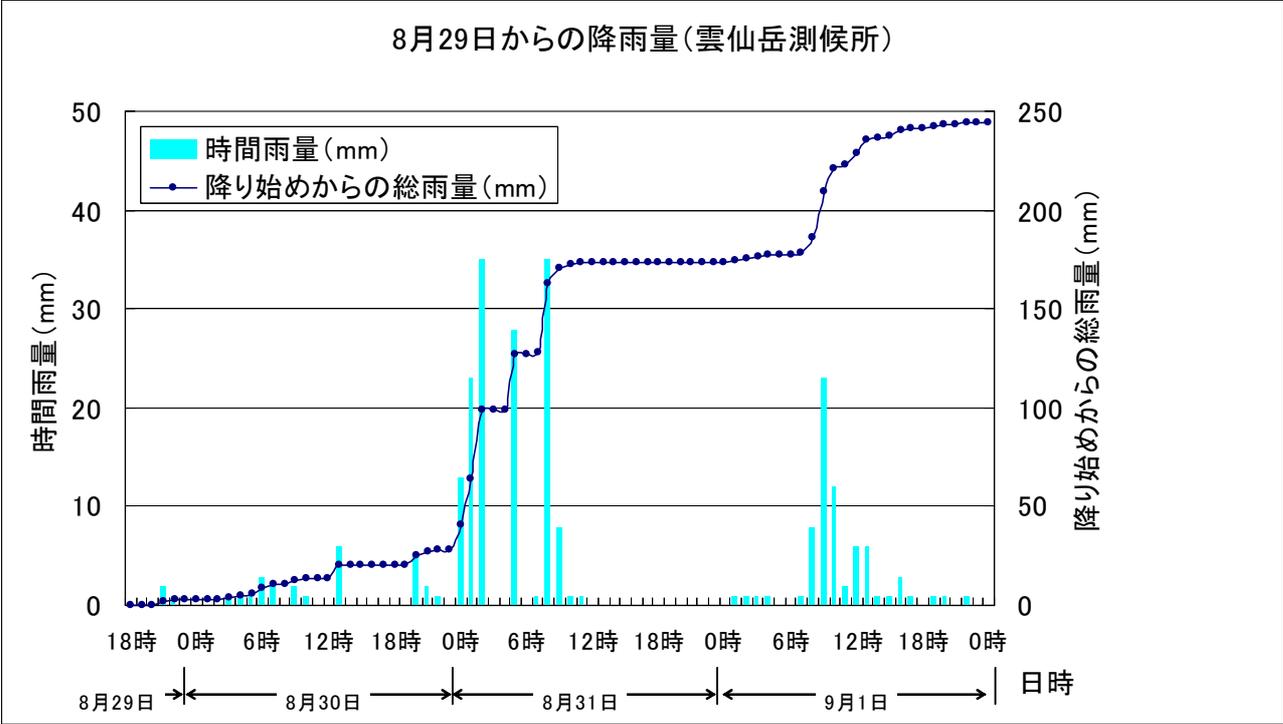
調査課長 目床 順司 (内351)

ホームページアドレス: <http://www.qsr.mlit.go.jp/unzen/>

平成 2 5 年 8 月 2 9 日～9 月 1 日降雨後の溶岩ドーム観測結果について

○降雨量

観測所：雲仙岳測候所（気象庁所管：長崎県雲仙市小浜町雲仙 3 2 0 番地）  
平成 2 5 年 8 月 2 9 日からの雨量は以下のとおりである。



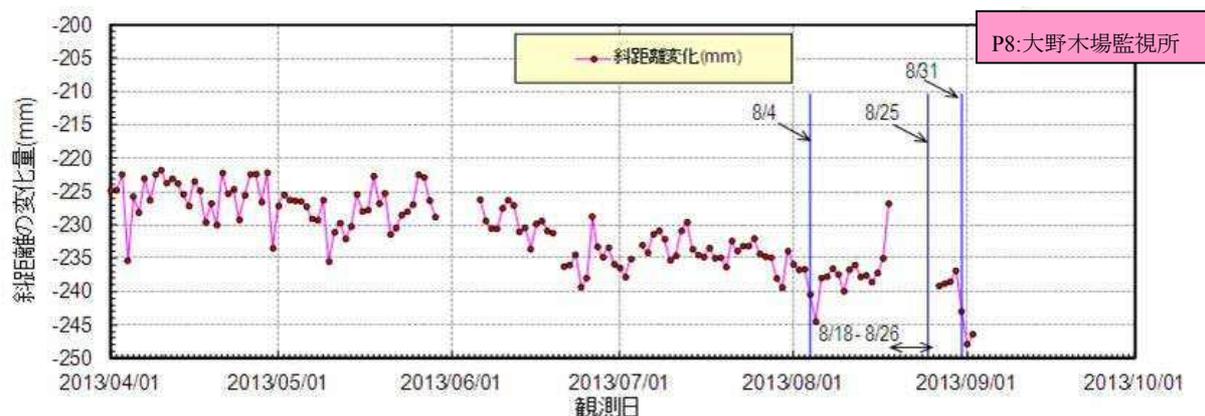
- ・ 降り始めからの総雨量：244mm（8月29日20時～9月1日22時までの74時間）
- ・ 最大時間雨量：35mm（8月31日1時～2時、8月31日7時～8時）



## ○溶岩ドームの観測結果について

平成25年4月1日～平成25年9月2日の期間における光波測距儀による溶岩ドームの観測結果は以下のとおりである。

観測結果より、今回の降雨前後で溶岩ドームの変位速度は変化していないため、特段の異常はみられない。



- ・ 気象等の影響により、データにばらつきがあるものの、8月31日の降雨前後で目立った変位速度の変化はみられない

※ 過去の実績では、連続雨量 200mm 以上の降雨が 1 週間以内に 2 度発生した場合は、溶岩ドームの変位速度の上昇が確認されているため、今後の降雨に注意が必要。

※ 溶岩ドームの挙動観測は、光波測距儀および地上型合成開口レーダーにより行っているが、地上型合成開口レーダーについては観測データの解析に時間が必要であり、解析の結果、異常が見られた場合はお知らせします。

①極楽谷と炭酸水谷の合流点 (H24. 7)



①同左 (H25. 9. 2) 堆砂あり



②最下流治山堰堤から2つ目 (H24. 7)



②同左 (H25. 9. 2) 堆砂 約1.5m



③最下流治山堰堤 (H24. 7)



③同左 (H25. 9. 2) 堆砂約3m

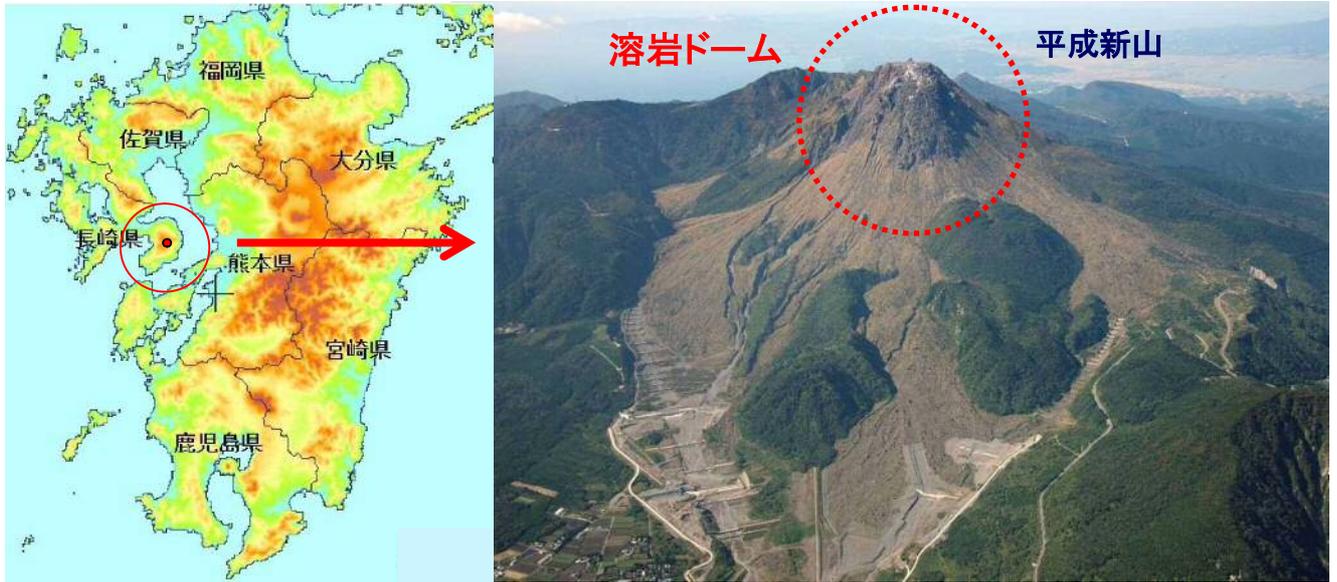


(左右の写真の赤○内が同じ岩です)

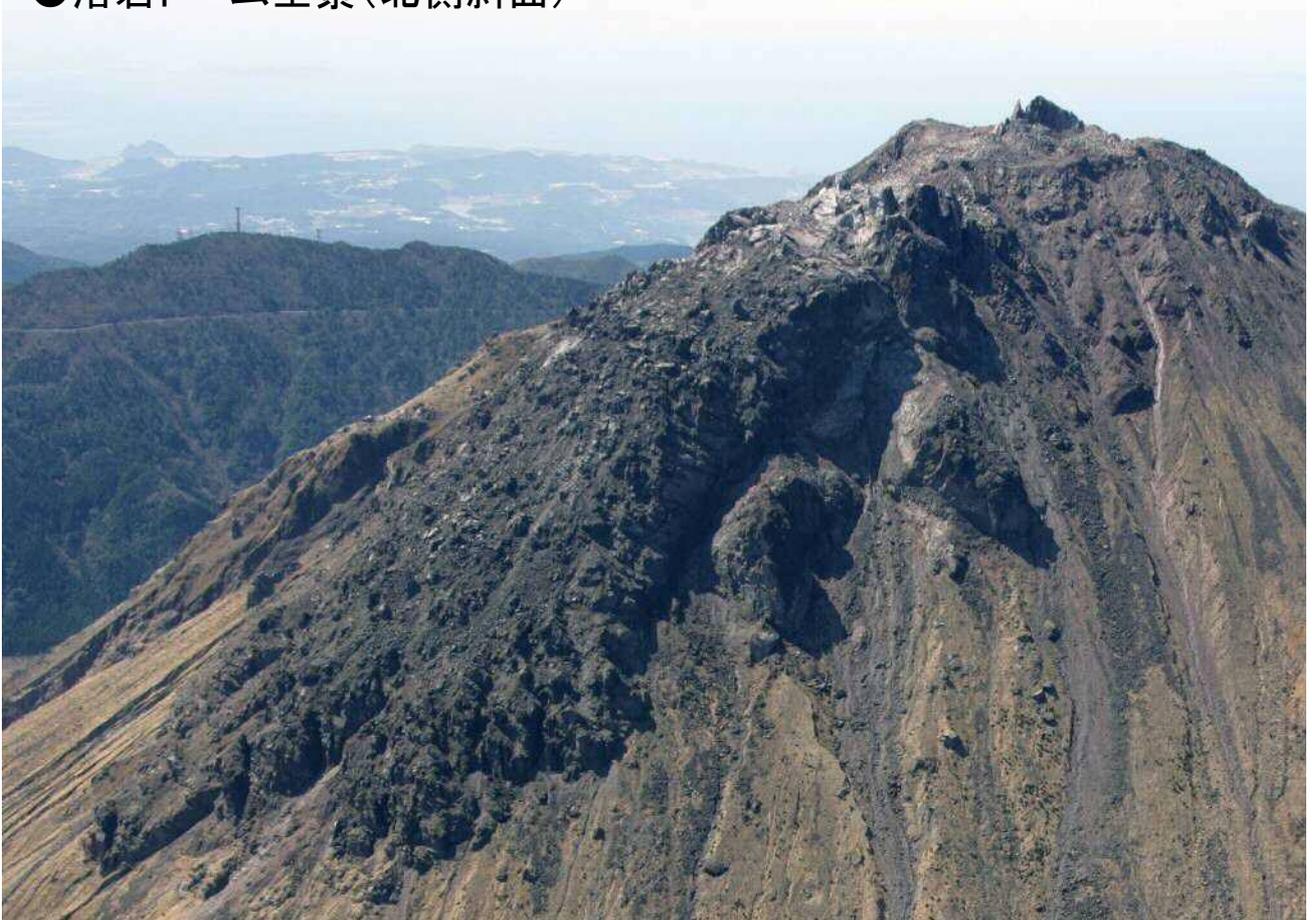
平成24年7月、平成25年9月2日の比較写真 位置図 (赤松谷支川極楽谷・炭酸水谷)

# 雲仙普賢岳 溶岩ドームについて

## ●溶岩ドームの位置



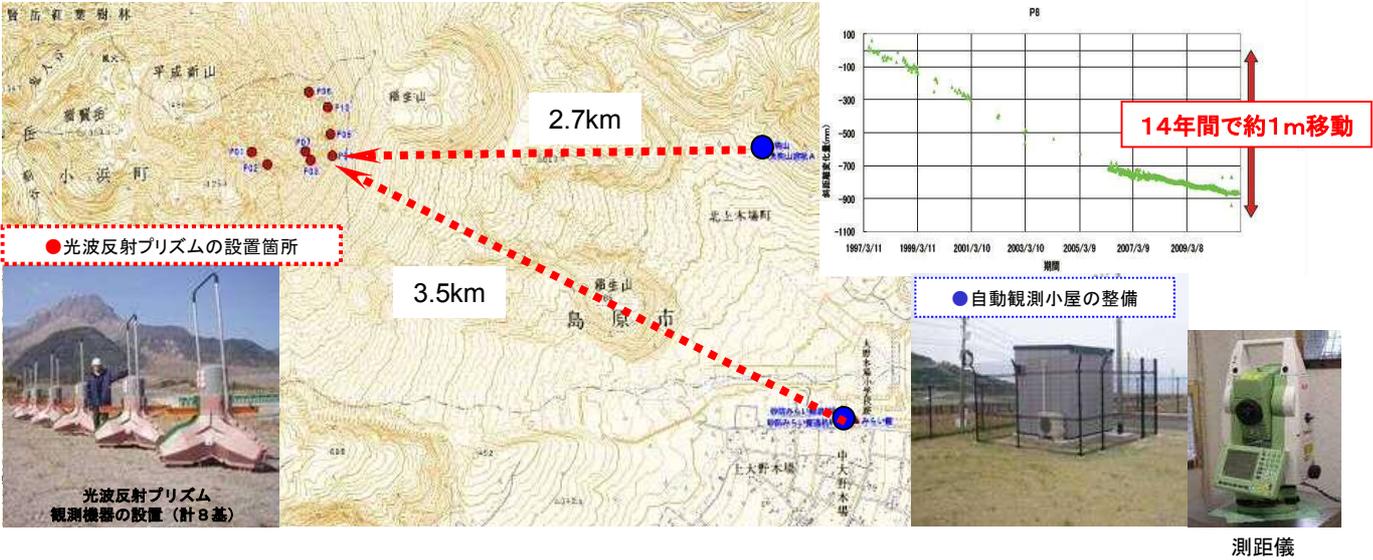
## ●溶岩ドーム全景(北側斜面)



# 溶岩ドーム挙動観測について

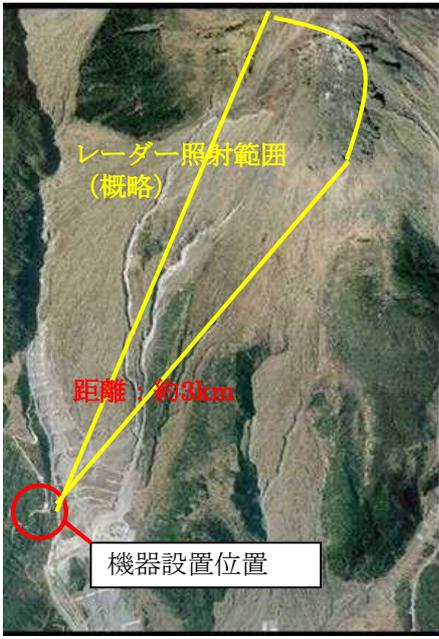
## ●光波測距儀による観測

測距儀から測点に設置した反射プリズムに向けて光波を発射し、反射プリズムで反射した光波を測距儀が感知するまでに発振した回数から距離を得るもの。



## ●地上型合成開口レーダーによる観測

送信した電波と受信した電波の位相量の変化から変位を求めるもの。  
また、アンテナをレール上で移動させることにより、大きな開口面を有するアンテナの性能を持たせると同時に電波の照射方向と直交する方向の分解能を有する。



地上型合成開口レーダーによる観測状況

